

フォーラム

特定非営利活動法人 奈良 21 世紀フォーラム会報

2018 年
No.33

ニュース

平成 30 年度通常総会開催 活動実施の方針・事業計画を決定



■活動実施の方針

- 奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。
- 奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。
- 奈良県内に根を下ろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と奈良の風土とのかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。

■平成 30 年度の事業計画

- ①「万葉蹴鞠」の復元
- ②「書の文化」の伝承
- ③「奈良県内の歴史文化資源」の探訪
- ④「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介
- ⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

◎通常総会

平成30年度の通常総会を6月16日(土)奈良ロイヤルホテルに於いて開催しました。

総会では、平成29年度の事業報告と決算の承認、平成30年度の活動実施方針、事業計画及び予算を決定しました。

また、一部理事の変更があり、新たに小林哲也氏、山崎理氏が理事に就任されました。足立伸之助氏は理事を退任されました。(役員名簿は8ページ)

活動実施方針は前記のとおりですが、事業計画は、フォーラム発足時からの事業である「万葉蹴鞠」の復元、「書の文化」の伝承、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援の3事業を継続するほか、「奈良県内の歴史文化資源」の探訪については、日本人の心の原点を探る活動として奈良県内の神社、仏閣を始めとする文化資源を顕彰し、新たな視点で紹介するとともに、食文化を発掘し、観光資源として地域活性化に結びつける提案活動を行ってまいります。

このほか「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介については、奈良の風土に生まれ成長するユニークな企業を対象に記録、調査し、経営トップの取材を通じて「奈良に息づく風土産業 企業人列伝」として製作、刊行し、これらをシリーズ化する。また、既出版した列伝冊子を再編集し、一冊にまとめ出版する準備を進める。取材企業での製造・製作・展示等の現場や、様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として企業見学会を実施してまいります。これら2事業と合わせて5事業を行うことを決定しました。

総会終了後、鉄田憲男氏(NPO 法人奈良まほろばソムリエの会 専務理事)から「明治維新の魁! 天誅組〜決起155年、明治150年を記念して」と題してご講演を頂きました。幕末の日本を取り巻く緊迫した情勢を分かりやすくお話いただき、天誅組を理解する一助として大変有意義なひと時となりました。



理事会風景 (総会に先立ち理事会が開催される)



総会風景



講演される鉄田憲男氏

【平成 30 年 1 月以降に実施した事業】

1. 万葉蹴鞠の復元

◎春日大社奉納蹴鞠の実施

奉納蹴鞠の宴 in 飛火野 一新たなる奈良県観光資源に一

6月24日（日）、春日大社奉納蹴鞠行事として、万葉蹴鞠の奉納を同大社「林檎の庭」で催しました。平成27年、28年の春日大社第60次式年造替奉祝行事として2年間にわたり春・秋奉納し、29年から春日大社奉納蹴鞠行事として春に実施しています。今回で6回目の奉納蹴鞠となりました。

飛火野で予定していた万葉蹴鞠チームの蹴鞠披露並びに第1回目となる「万葉蹴鞠カップ大会」は前日からの雨が上がりず、残念ながら中止となりました。

今回も、奈良市観光協会のご協力を得て、女官役として第29代「ミス奈良」の佐伯理恵さん、塚原瑞穂さんの2名に参列いただきました。

出演者一同はおごそかに行列し、「林檎の庭」にて玉串奉奠など正式参拝した後、蹴鞠を奉納しました。天理大学雅楽部の皆さんによる雅楽の調べが響く中、古代衣装姿のフリースタイルフットボーラーの飯島正人さんの華麗な足技に、一般参拝者からも拍手、歓声が湧き上がりました。（『続日本紀』に蹴鞠などの一芸に秀でた者を表彰した記録があることに由来して実施）

以下、当日の様子を写真で紹介いたします（役職などは開催当時のもの）。



ミス奈良の佐伯理恵さん（左）塚原瑞穂さん（右）



玉串奉奠



植野康夫・当フォーラム理事長



花山院弘匡・春日大社宮司



一松旬・奈良県副知事



フリースタイル・フットボーラーの
飯島正人さんによる足技披露



お祓いを受ける



出演者一同（林檎の庭にて）



天理大学雅楽部の皆さん

2. 「奈良県内の歴史文化資源」の探訪

(1) 大和の奇祭「お綱祭り」見学

実施日 平成30年2月11日（日曜日）

参加者 21名

農耕神事である「お綱祭り」は、桜井市の江包・大西の両地域が舞台である。大西では雌綱、江包では雄綱が作られ、旧暦正月10日（今日では2月11日）に、江包の素盞鳴神社の神前で、両大字から運び込んだ雌雄の綱が会い、夫婦の契りを結ぶ「入船式」、つまり結婚式を行うが、今回は、この奇祭ともいえる神事を見ようと、たくさんの参加者が集まった。

午前10時過ぎにJR「巻向」駅に集合した一行は、20分ほどで江包集落にある春日神社に到着した。小さな境内には、出番をまつ重さ600kgから1tともいわれる円錐形に100^匁の長い尾をつけた雄綱が置かれていた。村内の巡回を終えたあとらしいが、境内では子宝に恵まれるようにと、新婚の男性に雄綱の尾を巻きつけ、関係者が祝の気持ちを現わしていた。

しばらくすると、当神社より少し南の田んぼを土俵に見立て、泥相撲が行われた。泥が付けば付くほどその年は豊作になるといわれることから、四ッに組む主役は見物客にはやしたてられ本気モードだった。

小一時間ほどの泥相撲を行った頃、もう一方の大西地域（舟形（女形）で雄綱と同じ重さ）の雌綱は早くも素盞鳴神社に到着。神社横には大和川（初瀬川）が流れ、寒風をさえぎるものは何もなく、小雪のちらつくなか先導の仲人役は七度半の「呼び使い」を春日神社に向けて行った。すると待機していた雄綱が100^匁先の素盞鳴神社に向けて動き出し、11時半頃から入船式が始まった。

神社横の畑に用意された焚火にあたりながら、その瞬間を待っていた私たち一行も神前に移動、人だかりのなか入船式を見届け、次の行程へと、もと来た道をひきかえし、JRで長岳寺へと向かった。早速庫裏で温かい煮麺の昼食を摂り、ホッと一息つく。食後本堂に移り、住職より地獄絵の絵解きを聞く。生前の行いがいかに大事かが痛感させられたが、神社やお寺でいただく朱印帳をあのに世に持って行くと、万が一のために役立つとの話に安堵したり…。



泥相撲が行われる



雄綱が大勢の村人により担ぎ込まれる



中田講師のお話を伺う（天理市トレイルセンターにて）

約 30 分間の話しののち、門前にある山の辺の道の休息所・天理市トレイルセンターに入った。室内の暖かさに身も心もゆるんだ頃、講師から次の行程にある崇神天皇御陵のことなど用意された資料を手元に、話を伺った。

帰路、崇神天皇陵と、黒塚古墳に立ち寄った。黒塚古墳は周辺を池に囲まれ、柳本公園の一角にある。ここでは古墳の上に佇み、墳上に記された等身大の石室や副葬品の絵を見ながら古墳が造られた時代や規模、そ

して多量に出土した「三角縁神獣鏡」についての説明を受けた。

寒風にふるえる一日ではあったが、参加者のみなさんは一人では行きにくいこの奇祭を心に焼き付け、最寄りの駅へと向かった。（N.N 記）

（2）當麻寺の練供養見学

実施日 平成 30 年 5 月 14 日（月曜日）

参加者 26 名

じんわりと汗ばむほどの日差しの 5 月 14 日、正午に当麻寺駅に集合。約 30 分かけ當麻寺近くの食事処「小川亭」に着く。

数々の料理に舌鼓を打ち、しばし歓談の後、夕方から見学する練供養についての話が講師からあった。まずは當麻寺について、當麻寺は 2 つの浄土宗の塔頭と、2 つの真言宗の塔頭からなり、當麻寺全体の運営は 4 つの塔頭が輪番制で行っていること、そして練供養の運営は「當麻寺菩薩講」が行い、それを管理しているのが浄土宗の御念院であること。



次に、用意された資料にしたがって、中将姫がいたころの時代背景や中将姫家系図、また中将姫物語を、江戸時代に編集された『本朝烈女伝』をもとに、詳しく説明を受ける。続いて文学での中将姫信仰は、鎌倉時代以降『當麻曼荼羅縁起』をはじめとする本に採録されているが、その背景となる説話の悲劇や神秘性によって、次第に信仰から離れ、物語や説話として成長していったこと。

それに対し、折口信夫の『死者の書』は、大筋では中将姫伝承をなぞりながら、作中では

如来や菩薩の名を具体的には示さず、神仏習合を暗示的に描いているなど、前者との違いをうかがった。最後に練供養の進行状況や、見方についての話があった。

参加者からは、「知らないことばかりで、よい勉強になった」との声も聞かれた。

その後一行は當麻寺へと移る。

當麻寺境内には徐々に見学者が増えつつあり、数日前に渡された東西約100^{メートル}の板橋「来迎橋」が、その瞬間を待っていた。

練供養の運営に関わる、本堂横の御念院では、練供養がはじまるまでの間、使用する面や中将姫像の乗る輿が公開されていて、見学をする。面を付けてもらった参加者は、目の穴から見る視野が余りにも狭いのに驚いた、などの感想を話し会っていた。

その頃本堂前は大勢の人で埋めつくされていた。

一般的には「當麻のお練り」や「當麻レンゾ」の名で親しまれている「當麻練供養会式」は天平の世に29歳で生きながら西方浄土へと迎えられた伝説の女性、中将姫の伝承を再現した宗教劇。

夕刻4時前、輿に乗った中将姫像は娑婆堂（現世）に移された。

続いて、お練りがはじまった。笙笛の音が響き、僧が大鉦を打って読経をはじめると、金色の面を付け二十五菩薩に仮装した「講」の人たちが来迎橋の上を練りながら娑婆堂へ渡った。観音菩薩は中将姫をすくいあげる蓮台を持って迎えに行き、そして娑婆堂に移座していた中将姫を迎えて、行きと同じく極楽堂へ帰る。このとき二十五菩薩の面が二上山に沈

みいく夕陽に神々しく輝き、バックに流れるキタローの音楽が一層の演出効果を生み出していた。

境内を見渡すと、数珠を手に、菩薩にむかって拝んでいる何人かの姿も見受けられた。昔は、境内に「南無阿弥陀仏」の声が一斉に湧き上がったそう。

約一時間後、それぞれ余韻を胸に、當麻寺をあとにした。(N.N 記)



役員名簿 (平成30年9月1日現在)

役職名	氏 名	職 業 (経 歴)
理 事 長	植野 康夫	(株)南都銀行 取締役会長
副 理 事 長	谷口 宗男	奈良交通(株) 取締役会長
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長
相談役・理事	江並 一嘉	元(株)近鉄百貨店 副社長
理 事	安細 恭弘	マルチメディアコンサルタント
理 事	猪熊 兼勝	京都橘大学 名誉教授
理 事	上野 誠	奈良大学 教授
理 事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理 事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 相談役
理 事	岡橋 清元	清光林業(株) 取締役会長
理 事	岡村 元嗣	岡村印刷工業(株) 取締役会長兼社長
理 事	花山院弘匡	春日大社宮司
理 事	榎木 康雄	新日本料理材料研究会 主催者
理 事	菊池 攻	奈良トヨタ自動車(株) 取締役社長
理 事	久保 昌城	竹茗堂 左文 代表
理 事	小林 哲也	近鉄グループホールディングス(株) 取締役会長
理 事	小山 新造	小山(株) 取締役会長
理 事	近東 宏佳	共同精版印刷(株) 取締役社長
理 事	高松 啓二	(株)近鉄百貨店 取締役社長
理 事	豊澤 安男	奈良豊澤酒造(株) 取締役会長
理 事	中井 隆男	大和ガス(株) 取締役会長
理 事	中畠 實男	奈良中央信用金庫 理事(相談役)
理 事	丸山 隆司	KNT-CTホールディングス(株) 取締役社長
理 事	森下 泰行	元近畿日本鉄道(株) 副社長
理 事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役会長
理 事	山崎 理	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役事業本部長
理 事	山本 太治	(株)三輪山本 取締役社長
専務理事(事務局長)	中村 優造	元新若草山自動車道(株) 取締役社長
監 事	中畠 大	中畠大会計事務所 所長
監 事	福島 重博	奈良県サッカー協会 名誉会長

2018年9月発行

編 集 中村優造

発 行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町511-3 奈良交通第2ビル